

民話「姉川と妹川」の成り立ちと地理的背景

安井 雅彦¹ 富永 晃宏²

¹正会員 株式会社パスコ 中部事業部 名古屋支店（〒460-0003 名古屋市中区錦 2-2-13）

E-mail: miauss3811@pasco.co.jp

²正会員 名古屋工業大学大学院教授 社会工学専攻（〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町）

E-mail: tominaga.akihiro@nitech.ac.jp

民話「姉川と妹川」は、二人の姉妹が二匹の龍となり雨続きで崩壊しそうになった伊吹山中腹の水を下流に導き、その二匹の龍が山を駆け降りて通った跡は琵琶湖に至る川となって沿岸の平野は肥沃な土地になったことで、その川は「姉川」と「妹川」と呼ばれるようになった、とする滋賀県湖北地方の伝承である。龍を登場させて川の起源を伝える内容であり、この民話が語られる背景を地形、地質などの地理的な要因から推測することができる。その基になるものは伊吹山地の麓と湖岸平野を区切る境界付近に活断層が存在することであり、断層の活動によって生じたいくつかの現象が民話を構成する要素となっていったと考えられる。

Key Words: oral tradition , benefit of rivers , simile for dragon , active fault , cultivation ,

1. はじめに

(1) この研究の目的

滋賀県長浜市と米原市で構成される湖北地方の水源地は岐阜県境の伊吹山地にあり、姉川は伊吹山を始めとする山地南部の水を集めて流れ、三国ヶ岳を中心とした北部は高時川の流域、その間の金糞岳を含む部分は草野川の流域となっている。この3河川に囲まれた低地の排水を担う田川をめぐる治水の歴史は、比較的近年であり詳しく知ることができるが、姉川とこの地域で妹川とも呼ばれる高時川あるいは草野川に関する川の起源は民話の形で伝承となっている。「姉川と妹川」の民話では川の起源とそれが人々に恩恵を与えたことを説明し、「姉池・妹池」の民話はその語源を示している。

これらの内容は現実的なものではないが、この地域の地理的特性から、この民話の基になる現象や背景が存在すると考えられる。その中でも、この地域の信仰の対象ともなった伊吹山の存在あるいは断層の活動が特筆され、この研究ではどのようなつながりが見出されるかを推測する。

(2) 研究の内容および参考資料

「姉川と妹川」の民話と断層の活動などの地形・地質を結びつけた既往の研究は見当たらない。この

ため、代表的な民話の内容の分析と、この地域の地形、地質の特徴の抽出を行い、それらの間の結びつきを考察して、「姉川と妹川」の民話が形作られた地理的背景を整理していく。

民話の内容について参考とする資料は、関係地域の「昔ばなし」を収録したものである。地形・地質に関する資料としては、『長浜市史』のうち「第1巻 湖北の古代」を用いる。また、活断層に関する情報は地震調査研究推進本部の公表資料による。

2. 民話「姉川と妹川」の内容

(1) 民話の伝わる地域

姉川と妹川に関わる民話は、長浜市旧東浅井郡域の旧びわ町および旧虎姫町、米原市旧坂田郡域の旧伊吹町に伝わっている。旧びわ町および旧虎姫町に伝わるものは、若干の違いがあるが川の起源を、龍を登場させて示すものである。旧伊吹町に伝わるものは、姉川と妹川の名の由来をそれぞれの川に流れ込む区域の姉池、妹池から示している。

(2) 川の起源を龍の出現によって示す民話

姉川と高時川が合流する旧びわ町に伝わる民話は高時川を妹川とするもので、次の構成となっている。

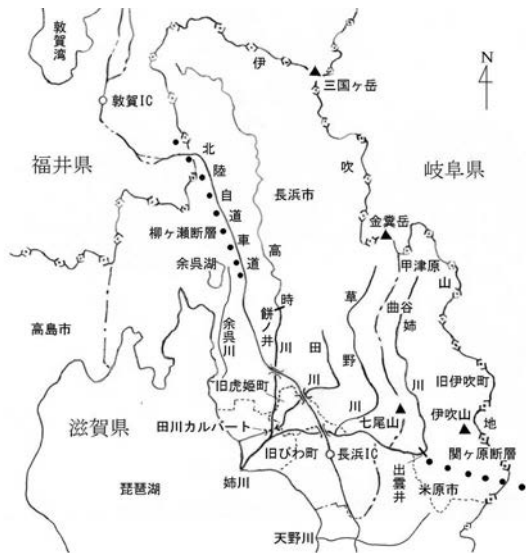


図-1 湖北地方を流れる姉川とその支流（筆者作成）

- ・伊吹山のふもとに二人の姉妹が暮らしていた。
- ・雨が降り続き人々は弱りはてていた。
- ・伊吹山はお腹がふくれあがって破れそうになり、雨よ止んでくれ、と悲鳴をあげていた。
- ・姉妹はこれを救うため山に登り伊吹山のお腹に飛び込んだ。
- ・その姉妹は二匹の龍となって伊吹山を下った
- ・姉の龍はすぐにふもとに降りたが、妹の龍は山裾を北にたちまわった。
- ・妹の龍はしばらくして道が違ったことに気づいて姉の龍を追い、落合って琵琶湖に沈んだ。落ち合った場所が旧びわ町の「落合」であった。
- ・二匹の龍が下ったあとには二筋の大きな川ができ、姉川、妹川と呼ばれるようになった。
- ・伊吹山のお腹の水は川になり、そこにできた平野にはいろいろな野菜や米がとれるようになって、たくさんの人も住むようになった。

旧虎姫町に伝わる民話では、具体的に伊吹山の中腹の池が、長雨で水があふれそうになり、池が決壊すれば大水で湖北の村々は流され大きな被害になると思われた、二人の姉妹は神に祈りその池に飛び込み二匹の龍となって池のせきを切って水を流した、とし、妹川は草野川を指している。妹龍が姉龍を追うとする記述はない。

(3) 姉池と妹池の民話

旧伊吹町に伝わる民話では、北部の曲谷に流れる川の上流に姉池があり、それが姉川の名前の由来であることを示し、妹池から流れる草野川を妹川と呼ぶとしている。内容は次のとおりである。

- ・七尾山北方の温見が岳の尾根には姉池と妹池という二つの池がある。



写真-1 旧びわ町落合の姉川・高時川合流点（筆者撮影）

- ・姉池というのは、唐の姉龍が住んでいる池に似ていることから名づけられた。
- ・姉池には水があるが妹池には水がない。昔は妹池にも水があったが、この池の畔に住んでいた大きな蜘蛛を退治してからは水がたまらなくなった。
- ・姉池は曲谷へ流れ、妹池は草野川の方へ流れるので、姉川、妹川の名前が生まれた。
- ・曲谷では昔から、雌の龍の旗を立て、頭に一升杓をのせ、ゆきばかまをはき、布一反をひきずって雨乞いをしたという。

また、さらに上流の甲津原には現在でも姉池と呼ばれる池があり、二人の姉妹がともに同じ若者を慕い、二人ともそれぞれ別の池に身を投げ、それが姉池、妹池であるとする昔ばなしが伝わっている。これらの昔ばなしは民話「姉川と妹川」に二人の姉妹が登場する基になったと考えられる。

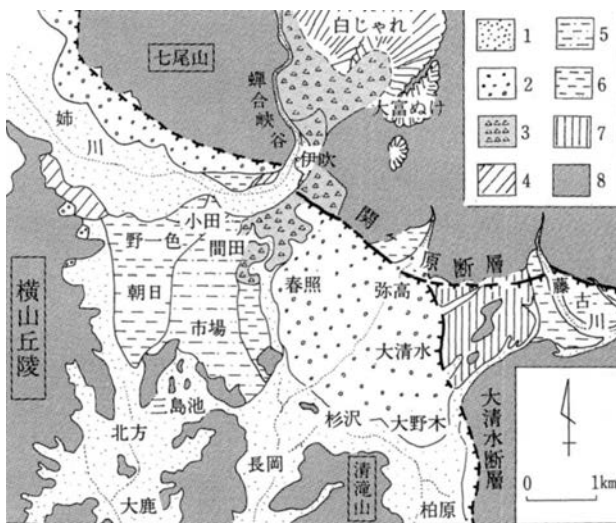
その他、伊吹山と七尾山の山腹に池があり、二人の姉妹がそれぞれの池に身を投げ龍となって水を琵琶湖に流し、それが姉川、妹川となり、その沿岸は肥沃な土地となったとする昔ばなしも伝わっている。

3. 民話の地域の地理的特性

(1) 伊吹山付近の活断層の活動

地琵琶湖周辺の山地や盆地の地形は、地殻変動の活発な過去約 200 万年間の第四紀に形成されたもので、湖北地方にはその地形を造りだしているいくつかの大規模な活断層が存在する。そのなかでも伊吹山および七尾山の南側の関ヶ原断層の活動による影響は次のようなものがある。

- ・伊吹山地と湖北平野との境界に一致し、西北西の走向を持ち、北東側隆起の逆断層で谷や尾根の左横ずれを伴う。
- ・伊吹山はこの断層運動により 800 メートル以上隆起して北西－南東走向の断層崖を造っている。



・最新の活動は4千9百年前以後15世紀以前とされ、地震を伴う断層運動により伊吹山の石灰岩の山体が大規模に崩壊した可能性があり、崩壊地跡は「白じゃれ」と呼ばれている。

・この崩壊した大量の岩屑は姉川を塞ぎ止め、かつて湖水を生じていたことが、上流の川底に粘土層が堆積していることから確認される。現在その場所は深い蟬合（せみあい）峡谷となっている。

・伊吹山から崩落した岩屑は、姉川が山地から低地に出る地点まで押し出し、姉川の流路を、それ以前の天野川へ向かう流れから現在の西へ向かう流れへと移動させている。姉川の南への流路が放棄されたのは1万～数千年前のことと推定されている。

・左ずれの断層運動は、この地方の南北の走向で並ぶ尾根と谷に食い違いを発生させ、さらに断層南西側に陥没帯を形成したことが姉川の流路の移動に影響している。

・関ヶ原断層は、岩屑の堆積や古い岩屑流を切断していること、河岸段丘を変位させていることから、

過去 1～2 万年の間に地震を伴って活動したことが推定されている。

(2) 姉川・高時川氾濫原の地形

姉川は山地から出ると西に折れて流れ、龍ヶ鼻地点から扇状地性の平野を形成する。この中で草野川と高時川を合流している。姉川沿岸には多くの旧河道跡が見られ、特に左岸側には集落に利用されている砂礫堆の微高地とそれに密接にかかわる灌漑水路のある凹部の旧河道跡が確認できる。これらの旧河道跡は流路の形態が不鮮明であることから、洪水の氾濫時に形成されたもので、1 万年以上前には流路としては放棄されたものと考えられている。

高時川では右岸側に現在の余呉川下流につながる旧河道跡が見られる。現流路は大きく南東側へ偏っていて、この流路の移動は、虎御前山の孤立山塊やその周辺の後背湿地の低地に見られる陥没による影響の可能性がある。この陥没は関ヶ原断層南西側から続いているもので、柳ヶ瀬断層の延長上にあたる。

4. 民話と地理的特性の結びつきの考察

(1) 伊吹山山腹の崩壊現象

旧びわ町に伝わる「姉川と妹川」の民話には「伊吹山はお腹がふくれあがって破れそうになり」の表現があり、伊吹山の大崩壊地「白じゃれ」の存在が連想される。この民話では長雨にその原因を求めているが、姉川が低地に出た場所の岩屑流堆積地の形状である「流れ山地形」は乾燥状態のまま流れ下った岩屑が小丘になり点在しているもので、4千9百年前以後15世紀以前とされる関ヶ原断層の活動による地震動で伊吹山の山体が崩壊したことがこの表現の背景にあると考えられる。

この民話では「二人の姉妹は伊吹山のお腹に飛び込み龍となって伊吹山を下り、お腹の水は川となった」とする。旧虎姫町に伝わる民話では「二人の姉妹は神に祈り伊吹山の中腹の池に飛び込み、二匹の龍となって池のせきを切って水を流した」とする。どちらの表現も、崩壊地跡「白じゃれ」から崩れ落ちた大量の岩屑が姉川を塞ぎ止めて生じた湖水を、室町時代に川を開削することで水を抜いて耕地を広げ住民の利を図った事績が反映されたと考えられる。

文和年間（1352～1355）に旧伊吹町大久保の長尾護国寺の僧深宥は、現在の蟬合峡谷の同町小泉の姉川にあった巨岩により20丈の高さの滝となって塞ぎ止めていた場所に90日間加持し、仏の力によって磐石が砕けて水が抜け、湖水が渉ることができる川となった（近江国坂田郡誌）、と伝わるものである。

このような現象は伊吹山から崩落して姉川を塞ぎ止めたものが土砂ではなく岩屑であったことを示している。龍を登場させるのは、この堆積した岩屑を崩したことから連想されたものと考えられる。

(2) 姉川の西流と高時川の合流

「二匹の龍が下ったあとには二筋の大きな川ができた」とする。これは姉川と高時川の新たな流路が出現したことを反映している。

現在の姉川ができた、とするのは、かつて南へ流れていた姉川の流路が、関ヶ原断層南西側の沈降と横ずれによって徐々に尾根部が陥没して現在の屈曲点付近から西へ向かう流路が開け、姉川を流下した土砂によって扇状地平野ができていき、伊吹山の山体崩壊に伴う岩屑流によって南への流路が塞がれて西流する方向に固定された、とすれば理解できる。

妹川と呼ばれる高時川ができた、とするのは、元は現在の余呉川下流方面へ流れていた高時川が、関ヶ原断層南西側から続く陥没帯に引き寄せられ、現在の位置に移動した、と見ることができる。また、

「妹の龍が、道が違ったことに気づいて姉の龍を追いかけて落合った」という表現は、高時川が姉川に合流するようになったことの反映である。高時川右岸の条里制地割に旧河道による乱れが、余呉川下流へ向かう旧河道跡以外に見られないことから、地形に急激な変化が生じたものと考えられる。

姉川と高時川の新たな流路も関ヶ原断層の最新の活動によって生じた変化で、この記憶が地域の人々の間に伝わるようになっていった。

(3) いろいろの野菜や米がとれるようになること

「二筋の川ができた後に、いろいろの野菜や米がとれるようになった」とは、直接的には、室町時代に姉川の蟬合峡谷の開削によって耕地が拡大したことを指しているが、姉川、高時川の河道が固定されたことによる耕地の開発と用水の整備が進んだことを二筋の川の恩恵という形で表現したものである。姉川の出雲井あるいは高時川の餅ノ井の切り落としに見られる水利慣行が続いてきたように、水源が不足するほどの耕地が出来あがったことを示している。

5. まとめ

「姉川と妹川」の民話は、4千9百年前以後15世紀以前とされる関ヶ原断層の最新の活動によって伊吹山の山体が崩壊すること、姉川と高時川の河道が新たに形成され高時川が姉川に合流したこと、および姉川が塞ぎ止められてできた湖水の水を室町時代に抜くこと、がその成り立ちに反映されている。また、「姉」、「妹」の名称は、姉川上流域の姉池と妹池の言い伝えから生じている。

伊吹山の山体崩壊と姉川および高時川の河道の移動は歴史の時代以前の出来事であるが、その記憶と二つの川からの恩恵は言い伝えられ、現在でも民話の形で表現されてきている。

参考文献

- 1) びわ町教育委員会：びわ町昔ばなし、1980. 3. 31
- 2) 虎姫町教育委員会：虎姫のむかし話、1979. 3. 15
- 3) 伊吹町教育委員会：伊吹町むかし話、1980. 3. 31
- 4) 日本資料刊行会：近江国坂田郡誌 第三巻下、1975. 7
- 5) 長浜市：長浜市史 第1巻 湖北の古代、1996. 12. 15
- 6) 近畿農政局：湖北農業水利事業誌、1987. 3
- 7) 地震調査研究推進本部地震調査委員会：柳ヶ瀬・関ヶ原断層帯の長期評価について、2004. 1. 14

(2018. 4. 9 受付)